

熊本地域リハビリテーション 広域支援センター NEWS



1 発刊に寄せて

前回のご挨拶で、「震災は他人事ではない」ことを強調しました。7月の北部九州豪雨は、そのことをまざまざと見せ付ける結果となってしまいました。県内でも阿蘇市、熊本市、合志市など身近な場所で大きな被害が発生しました。被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。

当法人でも、7月14日朝に、近くの坪井川が氾濫しそうになり、急遽、対策本部を設置して、老人保健施設入所者の避難準備や土嚢を積む作業などを行いました。翌15日は近隣の避難所の状況確認や一部地域の避難所への診療支援を実施しました。また、被災地域の障がい者の方々の避難入院を受け入れ、現在もリハビリを継続しています。

北区においては、区役所の皆さんや被災地区を担当する包括支援センター職員の皆さんが大変ご苦労されたお話をお聞きました。規模や期間の差はありますが、昨年石巻支援にうかがった時に感じた大規模災害時の混乱の状況がそのまま再現されたことを実感しました。熊本市としても、早急にあらたなマニュアルを作成されるとのこと。今回の災害の経験を踏まえて、より実効性のある対策が講じられることを願っています。

災害は決してこちらが予想している形ばかりでは起こりません。不測の事態では、臨機応変の決断と迅速な対応が迫られます。地域リハビリテーションの立場での緊急時の連携のあり方を再確認する必要性を強く感じています。

目次

- 1 発刊によせて
- 2 活動報告
老人会体力測定
- 3 「ささえりあ」始動
- 4 摂食・嚥下障がいの
食事基準
- 5 研修会のご案内
- 6 編集後記

2 熊本市北 1 地域包括支援センター(ささえりあ植木)管内 老人会の体力測定に行ってきました！

《A 老人会の実施風景》



当センターでは、熊本市北区内の5つの地域包括支援センター(熊本市北 1～5)との連携を推進しています。

昨年度までは、委託された事業所主導で事業が実施されていましたが、今年度は熊本市の政令指定都市移行に伴い予算化されず、展開できなくなった事業も生じています。

熊本市北 1 地域包括支援センター(ささえりあ植木)管内の老人会でも、昨年度まで実施してきた体力測定ができなくなり、同センターに相談が寄せられました。本年度もぜひ体力測定を継続したいとの要望を受け、同センターより当広域支援センターへ協力の要請を頂きました。

当初は、昨年度まで体力測定を実施していた 2 ヶ所の老人会のうち 1 ヶ所(A 老人会)より要望があり、実施企画を進めていましたが、もう 1 ヶ所(B 老人会)からも実施要望があり、去る7月 24 日(A 老人会)と 8 月 1 日(B 老人会)に実施をしました。

今回の体力測定は、一般高齢者を対象とするため、運動器機能評価 3 項目に絞って行い、その結果を基に健康維持・増進のための運動指導を行うこととしました。また、今回の測定を通して 2 次予防事業対象者の把握および参加への呼びかけも行うことにしました。

当センターよりスタッフ 3 名、熊本市北 1 地域包括支援センター(ささえりあ植木)よりスタッフ 3 名、北区役所より保健師 1 名の計 7 名で実施にあたりました。地元の行事等と日程が重なったりはようですが、A 老人会の測定には 15 名、B 老人会の測定には 22 名の参加がありました。どちらも 2 次予防事業対象となる方はいませんでした。

測定後には、家庭でできる運動指導を実技中心に実施しましたが、参加者の皆さんは熱心に取り組まれていました。(理学療法士 東)



《B 老人会の実施風景》



3 熊本市高齢者支援センター ささえりあ 清水・高平 (包括支援センター)

地域包括支援センターは、高齢者が住みなれた地域で安心して暮らしていくことができるよう、保健・福祉・医療等様々な面から総合的な支援を行う目的で高齢者の地域における包括的ケアの中核的機関として市町村に設置されました。

法律上は市町村事業である地域支援事業を行う機関ですが、外部への委託も可能で、熊本市は市内を27箇所我的生活圏域に分け、業務を委託しています。

1: 主な業務内容

- (1) 総合相談支援業務
- (2) 虐待の発見・防止などの権利擁護業務
- (3) 包括的・継続的ケアマネジメント業務
- (4) 介護予防ケアマネジメント業務

2: 職員

地域包括支援センターには原則として、以下の3職種が配置されています。

- (1) 保健師(または経験を有する看護師)
- (2) 社会福祉士
- (3) 主任介護支援専門員

ささえりあ清水・高平



このような催しも企画しています！

当地域包括支援センターには、3職種の他に **看護師3名、社会福祉士2名 計8名**で業務に当たっています。

実際の業務は約8割が介護保険に関する相談や事務作業で、他には認知症に関する対応方法や、治療に関する相談が多くなってきています。他に介護予防の一環として、地域の方々に向けての健康、介護に関する教室の開催や地域の催しへの参加等も行っています。

平成24年4月から熊本市内の地域包括支援センターは「エリア＝地域をささえる」という役割から「ささえりあ」という愛称ができました。

お気軽に皆様の身近にあります「ささえりあ」をご利用いただければと思います。(保健師 下出)



厚生労働省では、認知症サポーター100万人キャラバンを実施しています。

認知症サポーター (オレンジリング)を ご存知ですか？

認知症を正しく理解してもらい、認知症の人や家族を温かく見守り、自分にできること(友人や家族に知識を伝える、認知症の人や家族の気持ちを理解する、できるだけの手助けをするなど...)をしていただくことを目的としています。

認知症サポーター養成講座を受講されると、オレンジリングが授与され「認知症サポーター」となります。
この機会に、認知症について正しい知識を身につけてみませんか？
皆さまのご参加をお待ちしております。

熊本市高齢者支援センターささえりあ 清水・高平
NPO法人 健康と幸せの会

日時：平成24年 10月 12日 金曜日
15:00～16:30

場所：熊本機能病院 地域交流館 市民塾ホール

参加費：無料



NPO法人健康と幸せの会(健幸会セミナー)の対象となります。
会員の方は参加カードをご持参ください。



4 摂食・嚥下障がいのある食事基準

摂食・嚥下障害の程度に応じた段階的な食事基準は、「嚥下ピラミッド」が臨床現場で広く認知されていますが、その他「ユニバーサルデザインフード(UDF)」、「特別用途食品えん下困難食品許可基準」、「高齢者ソフト食」などが活用されています。

現在使用されている摂食・嚥下障がいの食事基準

嚥下ピラミッド	金谷節子氏
ユニバーサルデザインフード(UDF)	日本介護食協議会
特別用途食品えん下困難食品許可基準	厚生労働省
高齢者ソフト食	黒田留美子氏

それぞれレベルの名称や物性範囲(かたさ・付着性・凝集性)も違い、病院・施設での食事基準作成や在宅での介護食のアドバイス、転院時の情報提供時には混乱を招き、悩まれた方も多いのではないのでしょうか。

日本摂食・嚥下リハビリテーション学会では 2011 年 8 月に、同学会の嚥下調整食特別委員会にて「嚥下調整食 5 段階」が作成されました。

目的は前述のような混乱を可能な限り少なくし、また将来保健請求において嚥下調整加算を目指すためにも学会試案としての段階的基準を作成することなどです。

2012 年は学会基準案(中間報告)として今年の 8 月の学会で発表され、ホームページでも掲載されており活用が勧められています。現在さらに良いものを作るために 2013 年 2 月までパブリックコメントの募集が行われています。

近い将来、嚥下障害食のスムーズなアプローチができることを期待したいと思います。

「嚥下調整食 5 段階」と既存基準の互換性

	名称	内容・特徴	互換性	嚥下障害	咀嚼障害
1	嚥下訓練 ゼリー食		嚥下ピ L0 特用 I	重度	重度
2	嚥下調整 ゼリー食		嚥下ピ L1・2 特用 II	中等度	重度
3	嚥下調整 ピューレ食	咀嚼不要	嚥下ピ L3 特用 III UDF4	軽度	重度
4	嚥下調整 やわらか食		嚥下ピ L4 UDF3 高齢者ソフト食	軽度	中等度
5	嚥下調整 移行食		嚥下ピ L4 UDF1・2 高齢者ソフト食	軽度	軽度

各基準の内容をよく理解してご活用ください

参考文献: 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会ホームページ
学際医療栄養セミナー 中東真紀氏(四日市市社会保険病院)

栄養士 村上



第5回メディカルフィットネスセミナー開催のご案内

近年、高齢者に対する『体幹トレーニング』『コアトレーニング』が、様々な現場で注目され指導が行われています。本セミナーでは、介護予防の最前線にて活動をされている副島さと子先生をお招きし、高齢者特有の問題である『尿もれ』に着目し、その防止の必要性を講義と実技を通して学べる場を提供いたします。

- 日時:平成24年10月13日(土) 受付 13:30～ 講習会 14:00～16:30
- 主催:医療法人社団寿量会 熊本健康・体力づくりセンター
- 場所:熊本機能病院 南館2階大ホール
- 定員:100名(先着順)
- 対象:健康運動指導士、健康運動実践指導者、保健師、看護師等介護予防に携わる方
- 参加費:3,150円(税込・資料代込)

申し込み締め切り:平成24年10月6日(土)

セミナープログラム

- 13時30分～ 受付開始
- 14時00分～ 案内①『10分で学べる水分補給講座』
大塚製薬株式会社 ニュートラシューティカルズ事業部 販売促進担当
健康管理一般指導員 越智麻菜美
- 14時10分～ 案内②『コアトレーニングを導入した介護予防事業の取り組み紹介』
医療法人社団寿量会 熊本健康・体力づくりセンター
健康科学トレーナー 高野 聡
- 14時30分～ 講義・実技 『介護予防事業で知った！シニアの切実な尿もれの悩み！』
～大声で言いたいオマタの話し～
ALL HAPPY 株式会社 代表取締役 副島 さと子
- 16時15分～ 質疑応答
- 16時30分 終了

申し込みの際は下記にご連絡下さい。詳しい申し込み方法をお伝えいたします。

申し込み・お問合せ:熊本健康・体力づくりセンター

TEL:096-345-8113 内 7532 担当:中島・高野

お問い合わせ時間 9:00～17:00(日曜祝日は休み)

(スポーツトレーナー山下)



編集後記

本年度よりこのニュースレターを熊本機能病院のホームページ上で掲載させていただくことに致しました。リハビリテーションの立場で地域へ貢献できるよう、様々な取り組みや情報発信をしていきたいと思っておりますので、今後とも宜しくお願い致します。(言語聴覚士 井上)

[連絡先] 熊本機能病院:熊本市北区山室6丁目8番1号

電話 096-345-8111

FAX096-345-8188

電子メール アドレス kc-chiikireha@juryo.or.jp

